

## 難波田城公園

■難波田城は、荒川や新河岸川で運ばれた土砂によってつくられた堤防（自然堤防）の上に築かれた城館です。昭和36年（1961）に**埼玉県旧跡に指定された平城**（ひらじろ）です。上杉謙信の春日山城などは山城（やまじろ）、市内富士見台中に宮崎氏館跡などは丘城（おかじろ）に分類されます。

■難波田城公園は、難波田城跡を保存、活用することを目的とし平成9年度から3ヵ年かけて整備し、平成12年（2000）6月に開園しました。

難波田城跡の全体規模は、50,000 m<sup>2</sup>以上と推定されています。公園の敷地面積はその3分の1である約17,000 m<sup>2</sup>を整備した歴史公園です。

公園内は、城跡を復元した「城跡ゾーン」と富士見市指定文化財の民家を移築した「古民家ゾーン」に分かれ、その中央に中世以降の歴史を紹介する難波田城資料館があります。



■毎年6月に難波田城公園まつり

難波田城公園は、平成12年（2000）6月に開園しました。開園した日を記念して毎年6月に難波田城公園まつりが行われるようになりました。

## 「難波田城と城主」

### ■難波田城主とされる難波田氏の祖先は・・・

難波田氏は、**金子高範**（たかのり）を祖先とする一族といわれ、平安時代末期に成立した武士団「武蔵七党」（むさししちとう）の一つ村山党（むらやまとう）に所属する一族で、保元・平治の乱などで活躍しています。高範は鎌倉時代初めの承久3年（1221）、幕府が朝廷と戦った承久（じょうきゅう）の乱に幕府側として参戦して、討ち死にしました。その恩賞として「難波田」（現、南畑）の地がその子孫に与えられ、系図では高範の子孫**小太郎**から「難波田」を名乗ったとされています。そしてその子孫がこの地に居住するようになりました。

### ■南北朝時代に足利氏の内乱が起こり、尊氏（たかうじ）側の高麗経澄（こまつねずみ）軍と弟直義（ただよし）方の**難波田九郎三郎**の軍勢との戦いは・・・

観応（かんのう）元年(1350)、室町幕府の将軍足利尊氏（あしかがたかうじ）と弟直義（ただよし）の勢力争い、観応の擾乱（じょうらん）が起こりました。尊氏は翌年11月に関東に向けて出兵し、12月に直義軍を駿河国（現静岡県）薩埵山（さつたやま）の合戦でうち破り勝利しました。

同年12月19日、尊氏に合流するため府中（東京都府中市）に向かう高麗経澄（こまつねずみ）の軍勢と、それを迎え撃つ直義方の難波田九郎三郎の軍勢が羽根倉橋（はねくらばし）付近（志木市宗岡）で戦い、九郎三郎は敗れて討ち取られました。この合戦を「**羽祢蔵（羽根倉）**」合戦といいます。

### ■天文6年（1537）**難波田弾正憲重（善銀）**は小田原北条氏との合戦での和歌「**松山城歌合戦**」で知られます・・・

天文6年（1537）小田原北条氏との合戦で劣勢となった難波田弾正憲重（善銀）が松山城（吉見町）に退却しようとする時、敵方北条の山中主膳は次の和歌で呼び止めました。

「あしからじ よかれとてこそ 戦はめ など難波田の浦崩れゆく」

（悪しからず良いと思って戦ったのだろう、なぜ難波の浦の波のように引いていくのだ）

これに対し難波田も歌で返しました。

「君をおきて あだし心を我もたば 末の松山 波もこえなん」

（幼い主君をおいて自分が死ねば、松山は荒波にのまれてしまうであろう）

これは「松山城歌合戦」といわれ、難波田氏が和歌にもすぐれた武将であったことがうかがえるエピソードです。

■天文15年(1546)扇谷上杉氏(おうぎがやつうえずぎし)の重臣として、難波田氏が、北条氏康(ほうじょううじやす)の奇襲によって敗れた・・・

難波田弾正善銀(なんばただんじょうぜんぎん)は扇谷上杉氏(おうぎがやつうえずぎし)の重臣として、有力支城の一つである松山城(比企郡吉見町)の城代(城主)をつとめています。

天文14年(1545)扇谷上杉朝定(ともさだ)は関東管領上杉憲政(かんとくかんれいうえずぎのりまさ)、古河公方足利晴氏(こがくぼうあしかがはるうじ)と結んで、後北条氏の籠もる河越城を約8万の大軍で包囲しました。

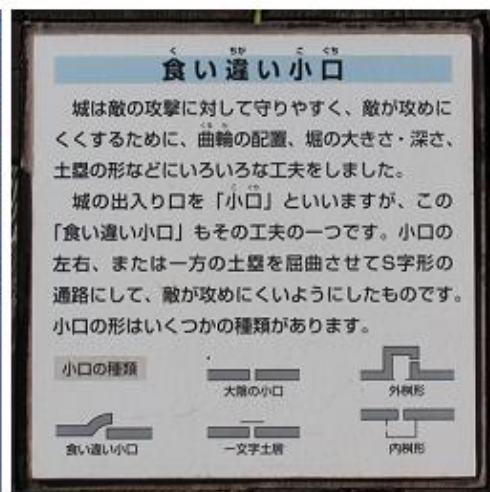
しかし、翌年(1546)4月20日夜の後北条氏の奇襲によって敗れ、朝定は討ち死にし、善銀も川越市内の東明寺(とうみょうじ)の古井戸に落ちて命を落としたといわれています。この合戦を河越夜戦といいます。これは、桶狭間(おけはざま)の戦・巖島(いつくしま)の戦とあわせて三大奇襲戦といわれています。北条軍の勝利により、難波田城は後北条氏の支城となり、上田周防守(うえだすおうのかみ)が入城しました。

## 「城跡ゾーン」

■難波田城公園の城跡ゾーンには、食い違い小口や発掘調査により復元された木橋(本城側が1間、約1.8m、外側が1間半、約2.7mの台形をした橋)、馬出し曲輪(くるわ)など、敵から城を守るための施設が再現されています。

### ◇◆◇食い違い小口◆◆◇

敵兵が直進できないようにクランク状に屈曲させている。



◇◆◇復元された木橋◇◆◇

発掘調査の際に内堀から見つかった橋脚列をもとに復元。新・旧の橋脚が出土し、旧橋脚の材質はクリ、新橋脚の材質はサイカチ。

※サイカチについては、あとに記載しています。



**復 原 木 橋**

この木橋は平成8年の発掘調査で発見された、木橋跡(写真)を復元したものです。曲輪2と曲輪3を突出させて、この部分に橋を架けて2つの曲輪を結んでいます。

橋の幅は、曲輪2側が1.8mに対し、曲輪3側が2.7mもあります。これは曲輪2(馬出曲輪)にいる城兵が、曲輪3に攻め出すのに便利で、反対に敵兵が攻めにくいようにするためと考えられます。

◇◆◇馬出し曲輪◇◆◇

本丸や追手の防御を固めるために築かれた曲輪。



土塁の向こうが「馬出曲輪」

**曲 輪 2**

曲輪1(本丸)の出入り口前方にある曲輪です。これは難に際して、この曲輪に城兵を入れる「馬出曲輪」と考えられます。

馬出にはいろいろな形がありますが、難波田城ではこのように独立した曲輪になっています。周囲に土塁を巡らし、外から中が見えないようにしていました。ここから曲輪3には木橋を渡っていました。

馬出の種類

		
辻の馬出	段の馬出	本丸の馬出

※曲輪：堀や土塁に囲まれ、通路や建物のあった平場。中世の城は「曲輪」、近世の城は「廓」と表記される。

※小口：城内外、曲輪内外の出入口をいう。「虎口」ともいう。小口は敵兵が集中する場所なので、本来は小口ごとに門がつけられ、防備を固めた。

## 「古民家ゾーン」

■難波田城公園内の旧大澤家住宅は、市指定文化財となっており、江戸時代の初めから大久保村の名主をつとめた大澤家の母屋として、明治4年（1871）に建てられました。東大久保の大澤家には、今でも市指定の長屋門と穀蔵が残されています。移築された母屋は、かやぶきの木造平屋建てで、建築面積は約85坪と大規模で、名主の家の特徴である「式台」といわれる玄関や庭中門、長屋門を持ち、奥座敷の違い棚、付け書院など格式の高さを示す特徴を数多くもっています。



<付け書院の一部>

■難波田城公園に移築された旧金子家住宅は、市指定文化財となっており、明治4年（1871）に建築された、約54坪の民家です。水子の金子家は、江戸時代末期から明治時代にかけて、農業のかたわら油商を営んでおり、現在も油屋という屋号で呼ばれています。正面西側の出入り口が商家に多い揚げ戸（あげど）になっています。そのためか、土間も広く、かまども目立たない場所にあります。間取りは、田の字型に区切られた4部屋で、「四つ間取」と呼ばれています。



<正面から>



<やや右側から>

■難波田城公園の旧鈴木家表門は、市指定文化財となっており、明治中期に建築された、長屋門形式の門です。鈴木家は針ヶ谷村の名主をつとめました。



<正面>



<母屋から>

■難波田城公園の池には行田市より移植した蓮があります。

蓮（はす）スイレン科の多年草、水田・池・お堀・沼などで長い花柄を水上に抜出て約60cmに達する紅色・紅紫色・白色などの美しい花をつけます、果実は逆円錐形の花床に埋没して楕円形をしています。

和名は蜂巢の略で、果実の入った花床が蜂の巣ににています。仏教とのかかわりが強く、寺院の池や池沼に多く見られます。



行田市より移植した蓮 ⇒

■難波田城公園にあるマメ科の落葉高木で、別名カワラフジノキと言ひ、幹や枝に棘があり、カブト虫が好む樹液を出す木の名前は・・・



サイカチはマメ科サイカチ属の落葉高木です。別名カワラフジノキと言ひ本州・四国・九州の山野や河原に自生しています。樹高15mほどになり、幹や枝には鋭い棘が多数あります。花は雌雄別で初夏5～6月に咲き長さ10～20cmほどの総状花序、花弁は4枚の黄緑色楕円形をしています。秋には長さ20～30cmの曲がりくねった灰色の豆果をつけて、10月に熟します。

豆果はサイカチという生薬で去痰薬・利尿薬としても使われます。サポニンを多く含むため古くから洗剤として使われていました。

クヌギやコナラと同様に樹液の漏出がよく起きます。昆虫の好適な餌となり、カブトムシやクワガタがよく集まります。カブトムシを「サイカチムシ」と呼ぶ地域もあり、南畑地域の方言でカブトムシを「せーかち」ともいいます。難波田城公園（南畑）内にもサイカチの木が1本あります。

## ■五輪塚

難波田城公園、西側塀の外に難波田氏の墓もしくは供養塔といわれる中世の石造物があり、五輪塚と呼ばれています。実際は「宝篋印塔（ほうきょういんとう）」の一部が2基残こされています。

ここに、戦に敗れた後に、鎧（よろい）などの供養品を埋めたといわれ、人々はこれを掘ると災（わざわ）いがあるといましめあってきました。



時代が変わって、村の者たちの諫（いさ）めも聞かず、ある男が塚を掘り、その真夜中に、戸の隙間から外を見ると、馬も鎧も血に染めた鎧武者が男に向かって来るのを見て、震えながらお題目を唱えたら消えていったといわれます。塔をあばく者があれば「白い馬にまたがった鎧武者が来る」という伝説が残されています。

## 「難波田資料館」

■同じ信仰で結びついた集団（結衆）によって造られた板碑の中で、日本最古と言われている市内の板碑が展示されています。

富士見市には日本最古とされる嘉吉元年（1441）の月待板碑（市指定有形文化財）があり、難波田城資料館に展示されています。月待板碑は、決まった月齢の夜に集まり月が出るのを待つ信仰の際に建てられます。このように同じ信仰の人々が集まって建てる板碑を結衆板碑（けっしゅういたび）と言います。その他に代表的な民間信仰の行事として庚申待（こうしんまち）や夜念仏（よねんぶつ）等の信仰もありました。

■昔から水害にあってきた南畑地区では、その対策として納屋の軒下や屋根裏に舟を吊るして水害に備えました。



荒川と新河岸川、柳瀬川が流れる富士見市の人々は、昔からたびたび水害にあってきました。とくに河川の増水と堤防の決壊により多くの被害を受けてきました。南畑地区の人々はその対策として、1m～2mの高さの水塚（みづか・みずづか）を作りました。

また、各家では納屋の軒下や屋根裏に舟をつるして水害に備えました。これを「上げ舟」と呼びました。この水害用の舟は、全長が約3m～3.6m、横が約75cm、深さが約30cmほどで、現在でも納屋につるした舟をそのまま残している家があり、難波田城資料館にも展示してあります。

## ■難波田城公園イメージキャラクター

難波田城公園イメージキャラクター

なんばった



平成22年(2010)7月、開園10周年を記念して、難波田城公園活用推進協議会が難波田城公園のイメージキャラクターを一般に募集しました。

応募総数は156点。最終審査は来園者の投票で行なわれ見事に1位には「なんばった」が選ばれました。

■難波田資料館のイベントが、ふじみ広報で毎月掲載されています。



## 利用案内

### ■難波田城公園

- 開園時間 4月から9月 / 午前9時から午後6時まで  
10月から3月 / 午前9時から午後5時まで
- 入園料 無料
- 休園日 なし

### ■難波田城資料館および古民家

- 開館時間 午前9時から午後5時まで
- 入館料 無料
- 休館日 月曜日(月曜日が祝日にあたるときは、その翌日)  
年末・年始(12月29日から1月3日まで)  
祝日の翌日(土・日・祝日をのぞく)



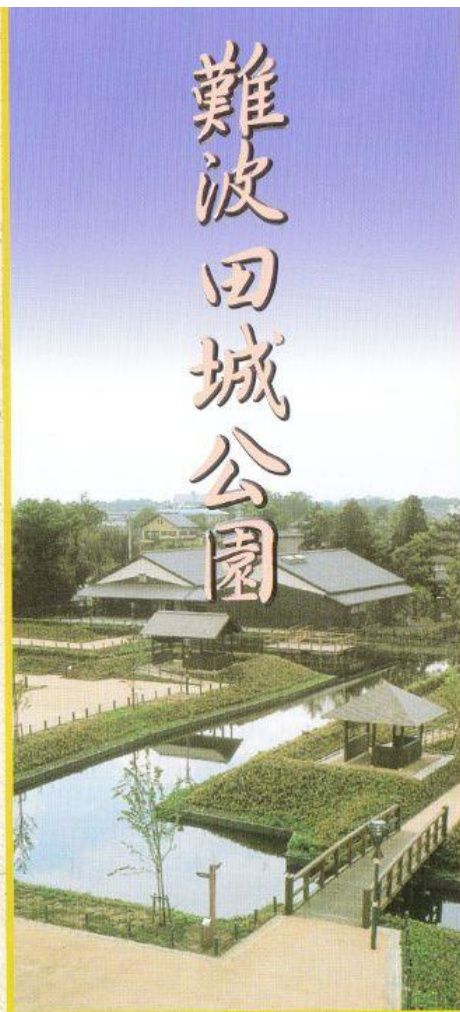
## 交通案内

- 東武東上線志木駅東口より東武バス富士見高校行き、「難波田城公園南口」下車徒歩5分、「興禅寺入口」下車徒歩3分、もしくは下南畑行き、終点下車徒歩10分



富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市大字下南畑568-1  
TEL.049-253-4664 FAX.049-253-4665



富士見市立難波田城資料館

記載日：2013/11/23

この内容は、「郷土富士見検定問題集」「郷土富士見検定問題集 第二集」から抜粋し、記載しています。また補足資料として「難波田城公園」の案内を利用させて頂いております。